



## 本 賞

浦田 哲郎  
(医療法人ホスピー理事長)

浦田哲郎氏の経営する医療法人ホスピーの「スクール」では、クリニックの他に病気を予防する為の運動施設を併設し、スパ（水による健康療法）、フィットネス、マシンによる運動を医師や、リハビリスタッフ、健康運動指導士のアドバイスで行える。氏は、地域住民の方々が寝たきりにならず、最晩年の時まで元気に暮らすこと、いわゆる「ピンピンコロリ」を目指している。

現在、富山から朝日までの会員は約1,600名程で、平均年齢は56歳。お隣さん、同じ町内の方も多く、中には1日3回も来館される方もおられ、かつての銭湯のようなコミュニティとしての役割も果たしている。又、一人で通所が無理の人や、遠方の方には無料の送迎も行っている。

日本では、まだ予防にお金をかける習慣は未だ根づいていないが、長寿の仕組み、認知症の予防方法などが明らかになるにつれ、日頃の生活スタイルが重要である事は明らかで、スクールで行われている地域のニーズに合ったアンチエイジングプログラムを皆が取り組めば必ず、地域住民の病気予防や介護、認知症予防に繋がると確信する。

このような活動は、新川地域において健康意識の向上に大変寄与しており、今後もおおいに期待するものである。



# 特別賞

## ニコニコタウン編集部

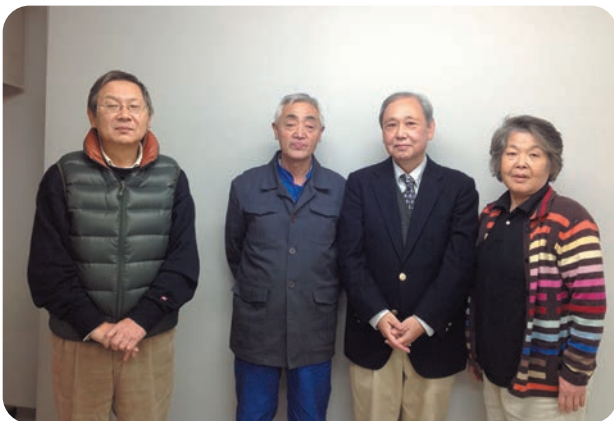
(代表：中島 憲一)

毎月1日の新聞各社の折り込みとして黒部のイベント、街や市の情報などを掲載し各家庭に10,850部を無料配布している。

編集・発行・情報収集などすべて有志によるボランティアで行われていて、市からの補助金等も無く、一番の経費は作成費よりむしろ新聞折り込み代ということである。(他の市町村なら、市の広報誌に折り込み無償となるはずだが、黒部市は一切折り込みを行っていない現状)

唯一の収入源は三日市、大町商店街などの36店舗(年々減少傾向)の協賛金でまかない、繰越金は残らないギリギリの経営をしている。

本年9月号が400号という大きな節目を迎えることよりも、その30年以上の長きに渡ってのご苦労に対し、敬意を表したいと思います。(1980年6月に1号を発刊)



## 特別賞

### 魚津祭組

2013年5月、魚津に新しい祭り「よっしゃ来い!!CHOUROKUまつり」が誕生した。主会場のJR魚津駅前大通りでは、魚津伝統芸能の「せり込み蝶六」をアレンジした「よっしゃ来い!!CHOUROKUコンテスト」が開催され、園児から大人まで、総勢700名以上が演舞を繰り広げた。また、「たてもん」、「せり込み蝶六」、「しんきろう節」、「上村木七夕祭」など郷土芸能の披露、県内外のよさこいチームによる「よさこい魚津」、地元のB級グルメを集めた「うまいもん祭り」など、朝から晩まで見どころ満載の祭りには、約12,000人が訪れ賑わいをみせた。

この祭りを主催したのは、地元で賑わいと活力を生み出そうと結成された「魚津祭組」である。新川青年会議所、魚津商工会議所などの若者有志約200人で構成されている。現在、「第2回よっしゃ来い!!CHOUROKUまつり」開催に向け、一人でも多くの人に笑顔を届ける企画を立てたいと準備を着々と進めている。

人口減少、高齢化、地域経済の活力低下といった課題に直面している今、危機意識を持った若い世代が声を上げ、連携し、行動に移したということは大変喜ばしいことである。これを評価し、次年度以降の励みとなるよう期待したい。



## 地域社会賞

### 鴨川 灯籠流し

(村木地区文化振興会)

鴨川に鮭を呼ぶ会、村木保健衛生協議会、地域住民の努力により美しさを取り戻した鴨川。

その清流で子供たちに遊んでもらおうと企画した事業です。身近にある自然（鴨川）に触れ合うことにより、この環境をいつまでも守ろうとする気持ちを子供達や地域住民に持ってもらいたいと願うものです。

毎年8月10日に餌指公園（北陸銀行魚津支店向かい側）にて灯籠流しをおこない、幼稚園児、小学生、父兄合わせて約150名の参加があります。また、平成6年より始めて本年で20回目の開催となるものです。灯籠は、約700個作りますが、これは地域住民、老人クラブ、絵手紙クラブの協力によるものです。催しの2週間程前には、夏休みに入った小学生を対象に村木公民館で、父兄やボランティアと一緒に灯籠を作ります。これにより、地域住民間の三世代交流が図られています。社会問題となっている少子高齢化ですが、村木地区も著しく少子高齢化が進み、地域住民の交流が希薄になりつつあります。

高齢者の地域社会への参加、公共施設・海岸・河川の保全意識の向上、顔見知りになる事による地域犯罪の抑止等、この事業による成果は多大であります。





## 地域社会賞

### 境関所まつり実行委員会

(代表：水島政行)

かつて北陸道随一の難所として知られた「親不知」にほど近い朝日町境で、毎年4月下旬に開かれているのが「境関所まつり」です。小学校跡地に建つ地域住民の交流施設「関の館」を主会場に、郷土芸能や演芸のステージが繰り広げられ、特産のだんご汁などを販売する出店も並びます。元々護国寺の石楠花観光から始まった催事ですが、いまや町内外から大勢の人が集まる町の一大イベントになっています。

境は山と海に挟まれた地域です。境村史や「加賀藩・富山藩の社会経済史研究」によると、平地の少ない地形から古来より交通・軍事の要衝となり、源平合戦や承久の乱など幾度となく合戦の舞台となってきました。加賀藩によって東境に境関所が設けられたのは1614（慶長19）年の江戸期とされます。明治維新で廃止されるまで250年余りも続きました。

境関所は越中ではただひとつ、奉行や与力を配置し、およそ60人の人員、鉄砲70挺、槍70本、具足60領などを備えました。小城さながらの武備・陣容に「嚴重なること、日本随一と聞ゆ」と恐れられていました。

2014年は関所の開所からちょうど400年の節目に当たります。これに合わせ「関の館」の一角に柵門を復元する工事が進められています。今年は関所まつりを2日間に拡大することが決まっており、例年以上の盛り上がりが見込まれます。



## 奨励賞

### 特定非営利活動法人 つむぎ

(理事長：飯田 恭子)

お年寄り、障害を持った人や子供を抱えた人達が住み慣れた社会の中でより充実した人生が送れるよう一時預かりなどの事業を行うとともに地域住民が健康、介助や介護に理解を深めるための普及啓発・支援事業などを行うことにより社会福祉と地域保険の向上及びまちづくりの推進活動を行っている。

民家を借用改修し、本部機能とともにつむぎ倶楽部を開設、独り暮らしや慢性疾患を抱える人、障害を持つ人や健常者が集まって昼食を楽しくお話しをしながら食べ、交流する喫茶の運営。また健康、介護相談、介護家族の集いなどの活動を続けながら昨年より認知の人と家族のカフェも始められました。

スタッフは総てボランティアで運営されており、糖尿病、独居者のみならず、がん治療後の人や家族介護に疲れた人など、癒しと同病者との交流を求める人々も来場する場となり、各人の持つ能力（調理・接待など）をボランティアに発揮する自己実現の場となっている。地域の皆様のご支援を受けながら個人や社会の歴史の縦糸に、周囲の多くの人々とのつながりを横糸として、障害を越えて関係をつむぎ合い、温かなまちをつくる活動をつづけておられます。



## 奨励賞

### 楽団 P l u t o

入善町を拠点に活動するアマチュアバンドで、地域文化の活性化の一助となるべく、団長・佐々木英明さんの呼びかけで2006年に結成されたアマチュアバンドです。入善町や県東部を中心に地元イベントや福祉施設での演奏、コンサートや各種イベントでの音響、イベントの企画・運営などの活動をしています。主にアコースティック編成で、ポップス、懐メロ、オリジナル曲などを演奏しています。

2008年秋から楽団 P l u t o 自主企画イベントとして、地元アマチュアミュージシャンの合同ライブイベント「MUSIC SUMMIT」を主催。地元のアマチュア音楽界を盛り上げ、地域文化の活性化を目指しています。昨年は12月8日に入善町うるおい館でvol19を開催し、好評を博しました。

キーボードのYUTAさんは4歳の時光を失いましたが、天性の音楽センスでクラシックからアニメソングまで何でも演奏し、最近ではインターネット上で番組も展開しています。

ボーカルの小林睦美さんは上は27歳から下は小学5年生の5人のお子さんの母親であり、障害をもったお子さんのお母さんです。かわいさと明るさ、そして優しさに包まれたキャラクターは楽団のシンボルと言えましょう。



## 青少年育成賞

### 東北の今を知ろうプロジェクト

このプロジェクトは、東日本大震災の被災地の現状を知り、高校生としてどのように関わっていけばよいかを考えるきっかけにしようと、魚津・桜井高校の生徒有志の呼びかけで、魚津・桜井・泊・新川の各校の生徒らが参加して、平成25年5月に発足した。

メンバーらは、6月から7月にかけて、南三陸で被災された方を招いて当時の状況を聞いたり、被災地支援に取り組む県内在住者を講師に迎え、活動に関わった経緯や内容、心境などを聞き、今後の活動内容や課題について検討した。また、7月下旬には、新川学びの森天神山交流館で開催された震災復興チャリティイベントに参加し、意見発表や、物品販売などを行った。

そして、8月に2泊3日の日程で、魚津・桜井・泊高校の生徒、PTA、教員合わせて44人が、宮城県南三陸町や気仙沼市を訪問した。南三陸町では鉄骨だけが残る防災対策庁舎や、200戸余りの仮設住宅がある平成の森団地などを訪ねた。平和の森では、自分たちの町を紹介したり、特産品を配ったりして住民と交流を深めた。気仙沼市では、気仙沼高校で互いに学校紹介をし合った後、介護施設やハローワーク、信用金庫など事業所を訪れ、震災当時の様子や復興計画について話を聞いた。

訪問を終えたあと、メンバーらは、9月にそれぞれの高校の学園祭で、現地で撮影した写真を展示し来場者らに自らの体験を伝えたり、東北地方の業者から仕入れた物品を販売するなどして、被災地への支援を呼びかけた。



被災者を招いての勉強会



支援者からアドバイスを受ける生徒たち



震災復興チャリティイベントに参加



南三陸町防災対策庁舎跡を訪問



仮設住宅でお年寄りと交流